

第 23 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会 議事録

日 時：平成 26 年 1 月 30 日（木） 10：00～13：00

場 所：日本薬学会長井記念館 1 階 AB 会議室

出席者：別記 1

配布資料：別記 2

○報告事項

1. 平成 25 年度第Ⅱ期実務実習実施状況について

資料 1（平成 25 年度第Ⅱ期実務実習実施に関わる報告書について）に基づき、1. 実習実施時のトラブルについて、2. 大学と施設の連携について、3. 実習に関する学生の意見、4. 実習に関する病院側の意見、5. 実習に関する薬局側の意見、6. Web による連携状況について、7. 評価実施について、各地区調整機構より主に下記の報告があった。詳細は資料 1 を参照。

【北海道地区】

- 体調不良等で実習を延期、変更した事例があった。
- コアカリキュラムの SBOs がすべて実施されないことに対して、自己の権利を主張する不満を施設、大学、調整機構に表明した学生がいた。
- 〈実習日程について〉平成 26 年度第Ⅲ期の実習日程について、運営会議に諮ったところ、週末をまたぐ日程は現場が大変であること、また今年度は 1 月 6 日から始めて問題がなかったことから、平成 27 年 1 月 5 日（月）～3 月 20 日（金）に日程を変更した。ふるさと実習においてもこの日程に合わせて行う旨報告とお願いがあった。

【東北地区】

- 施設の変更が 3 件、Ⅱ期からⅢ期への変更が 1 件あった。
- 病院側の意見として、日報が幼なすぎるため、大学で指導してほしいとの意見があった。
- 総じて大きなトラブルもなく無事に実習を終えることができた。

【関東地区】

- 非常勤薬剤師から実習生が「実習費が 275,000 円出ているのに自分は 20,000 円しかもらっていない。やっつけられない、教える気にならない」と言われ、以降、繰り返し同様の事を言われ続けた。また、本部の人間がそれを口止めしていた。
- 指導薬剤師が在宅患者に届け物をした際、学生 1 人に薬局を任せ、患者が来局した際、電話で対応を尋ねたところ「できないはずないだろう」と調剤を行わせ、薬剤交付や現金の授受まで行わせた。
- 衛生管理が非常に悪い薬局がある。軟膏板を用いずに机の上で軟膏を練る、分包機の清掃をしていない、整理整頓がなされていないなど。

【東海地区】

- 抗ガン剤無菌調製中、輸液にメソトレキセート点滴静注用を混合しようとしたところ注射針が外れ、安全キャビネット内に薬液を漏出。事故手順に従い安全キャビネット内をすみやかに清拭・破損薬品類を廃棄した。なお、実習生と指導薬剤師ともに被曝がなかったことを確認した。
- セクハラやパワハラにより、施設を変更した事例があった。また、その事が、学生が大げさであるなどと薬剤師の間で噂となったため、今後就職活動等の際に心配される。
- 薬局実習で調剤の際、明らかに期限切れ医薬品だったので確認したが、そのまま期限切れ医薬品で調剤をするよう指示された。

【北陸地区】

- 学生がⅠ期の日誌内容を修正しようと実務実習指導・管理システムにアクセスしたところ、編集できなかつたため、富士ゼロックスシステムサービスに電話で問い合わせた。その際の先方の対応や、不正アクセスを受けて使用不可になった期間があったこと、実習終了後の日誌が編集できないこと等に不満を持ち、苦勞して書いた日誌を信用できない会社のシステムに置いておくことは我慢ならないとして、Ⅱ期の日誌を全て削除した。（富士ゼロックスからは削除前データの提出あり）
- 交通事故（学生が同乗）が発生した。詳しくは調査中で、対応も現在検討中である。
- 現在、一病院が一括して北陸大生の実習を行なっているが、人数が多いため（Ⅰ期 40 名程）大学の実習の延長のようになっているなどの問題がある。契約が切れるため見直す予定である。

【近畿地区】

- 災害時医療等に関する集合研修中（自衛隊伊丹基地）、盗難被害にあった。被害が明らかになっているだけで、受講学生 10 大学 45 名中 5 大学 12 名が、約 125,000 円の現金の盗難を訴えている。学生各自で兵庫県伊丹警察署へ被害届を提出した。
- 調剤ピッキングを間違えるインシデントが発生した（2 件）。いずれも薬剤師または患者が気づき対応された。
- 日本薬剤師会から学生の情報が漏洩した事例があった。

【中国・四国地区】

- マナーや身だしなみ、また知識・技能面が不十分な学生がおり、大学が指導を行った。
- 薬局実習中に錠剤カッター（半錠カッター）の刃で指を切った事例が 1 例あった。近隣の医師で処置、実習カリキュラムに影響しないことを確認済み、学研災の適応となった。
- Web 版ポートフォリオを全学生へ導入することを前提に、病院 1 施設で Web 版ポートフォリオ、評価表を試験導入した。使用後の意見として、担当教員、学生の双方から手書きに比べて入力時の手間が簡略化でき効率的である、教員と指導者または学生との連絡が取りやすい、など好印象の意見が出された。今後施設側と話し合いをし、出来るだけ早く導入したい。

【九州・山口地区】

- 他地区からの学生については、大学と地区調整機構が連絡を取り合い、早めに九州・山口地区調整機構へ知らせてほしい。
- アスペルガー症候群の可能性が実習中に判明した。今後も個別に注意が必要な学生は事前に教えてもらう体制づくりが必要である。

上記事例のような特異的な病気の取り扱いに対し次のような意見が出され、今後の検討課題とすることが決まった。

掛見委員：大学はどの程度把握しているか、どう対処すべきか、調査した方がよいのではないか。

伊東委員：関東地区ではガイドラインを作成した。総会の承認を得たら、ホームページに掲載し、情報共有する予定である。また、問題を抱えている学生については、大学が情報を把握するシステムを構築し、実習先に伝えればよいのではないか。

網岡委員：事前に分かる事例は把握に努めるが、自己申告のため、致し方ない面もある。しかし、対処例など事例集を作成することは心強いと思う。

東海林委員：慎重に行うべきだと思う。

政田委員：個人情報についてきちんとした教育を行い、自分の情報をきちんと報告すべきである。

2. 6年制課程修了の薬剤師、指導薬剤師、大学教員を対象とするアンケート調査について（中間報告）
資料2（文部科学省委託事業に関わるアンケート調査の発送および回答状況）に基づき、須田事務局長より、平成26年1月29日現在の状況の報告と、各地区調整機構の協力へのお礼、また集計等に協力いただきたい旨お願いがあった。

○協議事項

1. 平成27年度実務実習実施日程について

資料4（平成27年度実務実習実施日程（案））を原則として決定した。ただし、各地区の都合で必要な場合は日程の変更は可とする。また、日程を変更する場合、ふるさと実習について周知の徹底を申し合わせた。

2. 平成24年度薬学教育協議会決算に伴う消費税について

資料5（平成24年度薬学教育協議会決算に伴う消費税について）に基づき、須田事務局長が4つの案を提案した。協議の結果、協議会本部が1/2を負担し、残り1/2は各地区の全支出に応じて負担することを決定した。

公認会計士事務所と相談のうえ、各地区調整機構へ通知することを決めた。

3. 実務実習契約書（ひな型）の改正について

資料6（実務実習契約書ひな型・案）に基づき、事務局長が修正点について説明した。

2月10日頃までに事務局に意見を寄せ、その後監事に意見を伺い、理事会に諮ることを決定した。また承認された場合はホームページに掲載することを決定した。

4. 認定実務実習指導薬剤師の更新に伴う実習施設との一元的把握について

資料7（認定実務実習指導薬剤師の更新に伴う実習施設との一元的把握について・提案）に基づき、須田事務局長が説明した。各地区の現状は下記のとおり。

- 【北海道】 150万円かけてシステムを構築した。メンテナンスは年間10万円。指導薬剤師が異動等の場合、入力を義務化している。年に2～3回地区調整機構から通知している。また、入力がない場合は、事務局から個別に連絡している。
- 【東海】 昨年度よりシステムを運用している。病院については、県病院薬剤師会を通して各病院へ依頼し、個別に入力してもらっている。薬局については、県薬剤師会が一括で入力している。来年以降はゼロックスの実務実習支援システムで指導薬剤師を登録するシステムがあり、それを活用し指導薬剤師の有無をリアルタイムで確認できるよう運用する予定。
- 【近畿】 毎年、次年度の調整前に、施設概要を含めた変更等の問い合わせを各施設に行っている。病院については、変更等があればその都度地区調整機構事務局で更新している。薬局については、府県薬剤師会に指導薬剤師を含めたリストを提出してもらっている。

一元的把握は今後、文部科学省、厚生労働省、日本薬剤師研修センターにも協議の経過を報告しながら、協議を継続することを決定した。

更新条件については、年度内に日本薬剤師研修センターより示される予定であると須田事務局長より説明があった。

なお、本提案では「ライセンス」という言葉を使用しているが、「認定証」に変更した方が良いとの意見が出された。

5. グループ実習体制の構築について

第22回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会での報告と同委員会の資料8の花輪教授によるデータに基づき、グループ実習の標準的な実施方法のたたき台を作成し、可能であれば次回会議に呈示すると望月代表理事から説明があった。

6. その他

- 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関わる受入薬局アンケートを、1月24日から2月10日まで実施しているので、結果がまとまったら報告したいと、日本薬剤師会より説明があった。
- 資料11-1（PMDAメディアナビ活用についての依頼状）に基づき、PMDAから下記2点の要望があったことを須田事務局長が報告し、各地区調整機構にて承認を得ることを決めた。
 - ①実務実習事前学習において、PMDAの資料を活用していただきたい。また、資料の配布方法等について、各地区調整機構の委員長へ説明の電話をしたい。
 - ②各地区調整機構から大学へ周知してほしい。
- 掛見委員から、近畿地区調整機構は法人化を今年度中に実現するよう進めている。それに伴い、中央調整機構、薬学教育協議会との協議が必要との報告があった。

○連絡事項

1. 平成 25 年度補正予算について（再）・平成 26 年度事業計画および予算案について（再）
資料 8（平成 26 年度予算案および事業計画書について（お願い））に基づき、須田事務局長が説明し、提出書類等について申し合わせた。

2. 平成 25 年度事業報告および会計報告
資料 9（監査に必要な書類の提出について（お願い））に基づき、須田事務局長が説明し、提出書類等について申し合わせた。

3. 平成 23～25 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの報告書提出状況
資料 10（平成 23～25 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの報告書未提出一覧）に基づき、須田事務局長が説明し、報告書の提出について確認を依頼した。

以上

別記 1

第 23 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会出席者名簿

所属	出席者名 (敬称略)	勤務先名称	出欠
北海道地区調整機構	宮本 篤	札幌医科大学附属病院	○
東北地区調整機構	東海林 徹	奥羽大学薬学部	○
北陸地区調整機構	中川 輝昭	北陸大学薬学部	○
関東地区調整機構	伊東 明彦	明治薬科大学	○
東海地区調整機構	網岡 克雄	金城学院大学薬学部	○
近畿地区調整機構	掛見 正郎	大阪薬科大学	○
	西野 隆雄	大阪薬科大学	○
中国・四国地区調整機構	手嶋 大輔	就実大学薬学部	○
	島田 憲一	就実大学薬学部	○
九州・山口地区調整機構	原 千高	第一薬科大学	○
日本薬剤師会	生出 泉太郎		○
	永田 泰造		○
日本病院薬剤師会	幸田 幸直	筑波大学附属病院	欠
	政田 幹夫	福井大学医学部附属病院	○
薬学教育協議会	望月 正隆		○
	辻 章夫		欠
	井村 伸正		○
	須田 晃治		○

文部科学省高等教育局医学教育課	丸岡 充		○
厚生労働省医薬食品局総務課	田宮 憲一		○
	海老原 卓志		○

オブザーバー

日本保険薬局協会政策調整部会	原 正朝		○
日本チェーンドラッグストア協会	小田 兵馬		欠

別記 2

配付資料

資料 1：平成 25 年度第Ⅱ期実務実習に関わる各地区の報告書

資料 2：文科省委託事業に関わるアンケート調査の発送および回答状況

資料 3-1：医療施設宛のアンケート

（部門長用、認定実務実習指導薬剤師用、6 年制卒業薬剤師用）

資料 3-2：大学教員宛のアンケート

（教務委員長用、実務実習担当責任者用）

資料 4：平成 27 年度実務実習実施日程（案）

資料 5：平成 24 年度決算に伴う消費税について

資料 6：実務実習契約書（ひな型）（案）

資料 7：認定実務実習指導薬剤師・実習施設の一元的把握について（提案）

資料 8：平成 26 年度事業計画および予算案の提出について（お願い）

資料 9：監査に必要な資料の提出について（お願い）

資料 10：平成 23～25 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ報告書未提出一覧

資料 11-1：PMDA メディナビ活用についての依頼状

資料 11-2：PMDA メディナビ薬学生向けリーフレット

追加資料：一般社団法人薬学教育協議会 組織図（案）